

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
国際介護福祉専門学校	平成11年4月1日	大森義紀	〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り1-2-5 (電話) 028-622-8199				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 ティビィシィ学院	昭和60年3月16日	理事長 齋藤武士	〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り1-2-5 (電話) 028-622-8199				
目的	今後さらに加速する高齢社会において、介護を担うリーダーとなれる人材を育成する。そのために介護福祉の知識と技術体系的に学ぶ。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科		平成13年3月8日 文部科学省告示第43号	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2226	1150	580	496	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	76人		4人	11人	15人		
学期制度	■前期 4月1日～9月11日 ■後期 9月14日～3月31日		成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験・出席状況・授業態度等を総合的に勘案して評価			
長期休み	■夏季：7月30日～8月31日 ■冬季：12月24日～1月5日 ■学年末：2月18日～3月22日		卒業・進級条件	実習の合格・レポートの提出・実技試験合格・ボランティア活動の実施			
生徒指導	■クラス担任制： 有 ■長期欠席者への指導等の対応 面談・保護者への電話連絡 家庭訪問・カウンセリング		課外活動	■課外活動の種類 施設の年中行事参加 ■サークル活動： 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 介護老人ホーム・福祉用具販売等 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成 26 年度卒業者に関する 平成27年5月1日 時点の情報)		主な資格・検定等	介護福祉士・住環境コーディネーター レクリエーションインストラクター			
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成26年4月1日 在学者 94名 (平成26年4月1日 入学者を含む) 平成27年10月31日 在学者 76名 (平成27年3月31日 卒業者を含む)		■中退率 0% ■中途退学の主な理由 なし				
■中退防止のための取組 面談・保護者への電話連絡 家庭訪問・カウンセリング等							
ホームページ	http://www.tbc-u.ac.jp						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
大関 喜子	社会福祉法人みゆきの杜 理事長
真島 健二	大島内科・小児科 事務長
矢野 淑子	国際介護福祉専門学校
丸山 亜紀子	国際介護福祉専門学校
宇塚 崇	国際介護福祉専門学校

(開催日時)

第1回 平成27年6月25日 17:20～18:30

第2回 平成27年10月14日 12:30～13:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

科目名	科目概要	連携企業等
介護実習Ⅰ	学内で学んだ学習を基礎とし、介護の実践を学ぶ。 学内の授業に合わせながら段階ごとの目標を設定し、目標に応じた体験をする。 様々な経験を通し介護福祉士としての完成を磨き、介護力を高めていくようにする。	ホームタウンほそや ころぼっくる 白楽園

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

「国際介護福祉専門学校教員研修規定」に基づき、計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。教育課程編成委員会などの意見を元に作成したカリキュラムを運用するにおいて、必要となる知識や技術と教員とのスキルを比較し、不足しているものを中心に研修計画を立てる。外部の教育機関が実施する研修または企業等から講師を招いての研修を受講する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
磯 勝夫	寺町自治会 会長
室井 加津枝	みのりの会 会長
真尾 和明	株式会社マーケットネットワーク 専務取締役
神山 剛宏	株式会社ティビィシスキャット 部長代理
山田 義治	栃木県情報サービス産業協会 理事
高橋 英基	サブコーディネーター・栃木県よろず支援拠点
鈴木 栄	株式会社バルテック 採用営業本部部長
戸川 敏英	株式会社ティビィシスキャット 課長
大町 純一	宇都宮商工会議所

富田 留美子	株式会社IT経営センターとちぎ 主任デザイナー
村上 敏成	ネットワーク協議会 栃木県支部代表
田中 一弘	一般社団法人日本旅行業協会
吉川 成彰	株式会社国際ツーリストサロン 代表取締役
小田島 建夫	栃木県防衛協会 副会長
森 雄二	北関東総合警備保障株式会社 人事課長
青柳 達巳	栃木県介護福祉士会 理事
大関 喜子	社会福祉法人みゆきの杜 理事長
真島 健二	大島内科・小児科 事務長
山口 京子	宇都宮市民間保育園園長会 会長
伊勢崎 栄子	しらゆり幼児園 主任保育士
大森 義紀	国際情報ビジネス専門学校 校長
山下 宗彦	国際情報ビジネス専門学校 副校長
大塚 一弘	国際情報ビジネス専門学校 教務部長
上野 照正	国際情報ビジネス専門学校 教務次長
金田 典幸	国際情報ビジネス専門学校
伊藤 由崇	国際情報ビジネス専門学校
山口 美紀子	国際情報ビジネス専門学校
郡司 理	国際情報ビジネス専門学校
金子 洋久	国際情報ビジネス専門学校
三橋 慎一	国際情報ビジネス専門学校
矢野 淑子	国際介護福祉専門学校
金井 孝明	国際介護福祉専門学校
小川 知恵	国際介護福祉専門学校

(学校関係者評価結果の公表方法)

[URL:http://www.tbc-u.ac.jp](http://www.tbc-u.ac.jp)

5. 情報提供

(情報提供の方法)

[URL:http://www.tbc-u.ac.jp](http://www.tbc-u.ac.jp)

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成27年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 支	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			人間の尊厳と自立	日常生活や社会の中で尊厳について考える。尊厳の概要が掴めてきたら、介護現場における尊厳について考えを発展させ、尊厳を守る介護について考える。	1前	30	○			○	○			
○			人間関係とコミュニケーション	なぜコミュニケーションは必要なのか、その手段にはどのような方法があるのかを学ぶ。またそれらの表現方法を実際に経験し人間関係の形成に役立てる。	1前	30	△	○		○			○	
○			人間関係とコミュニケーション(手話)	聴覚障害者を講師として授業を展開する。指文字や単語や数字表現など基本的な技法をスタートとして、挨拶や自己紹介や簡単な会話へと発展させていく。また介護の場面での基本的な用語や会話についても実践	2後	30	△	○		○			○	
○			人間関係と心理学	人の心のあり方を発達段階に応じて学んでいく。また心理的な援助方法やさまざまな心理用法についても学ぶ。演習を中心に進め楽しみながら心理学の初歩を学んでい	1後	30	○			○			○	
○			社会の理解	生活の基盤である家庭や地域、社会とは何であるかを学ぶ。その上で各制度、特に社会保障制度とは何であるかその概要について学び、特に介護保険法・障害者自立支援制度についての学びを深める。	2通	60	○			○			○	
○			家政学	衣食住の基本的知識を学ぶ。さらに高齢者と障害者の特性を学び、さまざまな調理の方法や、提供形態を実際に調理してみる。また簡単な縫いの技術を演習で実践し身につける。さらに快適な住環境の実践を学	2後	30	○	△		○			○	
○			生命科学	人間の誕生から死までのさまざまな場面で生命を考える。また最近の社会問題にもスポットをあて、生命を考えていく	1前	30	○			○			○	
○			日本文化	日本の気質・特性や基本的な習慣を学ぶ。また行事やしきたりなどの種類とその意味について学び、理解を深める。また日本だけでなく生まれ育った郷土の文化について	1前	30	○			○			○	
○			レクリエーション	アクティビティケアとは何か、その理念や意義と目的について学ぶ。またアクティビティの実際について演習を中心に学生自身が参加をし実践をして、アクティビティの理念を知り、技術を修得する。	1通	60	△	○	△	○	○			
○			介護の基礎Ⅰ	介護の歴史・制度・倫理など介護の根幹をなす部分を学ぶ。またノーマライゼーションなどの基本理念への理解を深められるようにする。さらに感染予防や連携など欠かすことができない知識も学ぶ。	1通	##	○			○			○	
○			介護の基礎Ⅱ	介護の歴史・制度・倫理など介護の根幹をなす部分を学ぶ。またノーマライゼーションなどの基本理念への理解を深められるようにする。さらに感染予防や連携など欠かすことができない知識も学ぶ。	2前	30	○			○			○	

○		コミュニケーション技術	場面に応じたコミュニケーションや利用者に応じた技術を講義を通して学ぶ。また現場を想定した演習を多く設定し、コミュニケーション力を体得できるようにする。	2通	60		○	△	○							○
○		生活支援技術Ⅰ	一人一人の生活状況を的確にアセスメントし、他職種との連携を学び、見守りから看取りまでのあらゆる介護場面において、共通する基本的な介護の知識・技術態度を統	1通	##		△	○	○			○				
○		生活支援技術Ⅱ	人間が生きていく基盤である生活が、尊厳・安心、安全、快適、その人らしい要素で継続できるような生活環境を整えていく知識・技術を学ぶ	2前	60		○	△	○			○				
○		生活支援技術Ⅲ	加齢による障害のみならず、障害者自立支援法の適応も視野に入れた障害の形態別に適応する援助技術を総合的に学ぶ。障害と生活への影響を理解し、実際の援助技術展開を演習を中心に学ぶ。	2通	60		○	△	○							○
○		介護過程Ⅰ	介護過程の倫理と実習体験を関連づけながら、介護過程が利用者を主体とする生活支援活動の展開方法であることが理解できるよう具体的な事例を多く取り入れながら授業を進める。最初は学生自身の身に置き換えり身近なわかりやすい例示を挙げさらに高齢者等の事例で学び、介護実習で展開の演習をし、それを学生で共有し学ぶ。	1後	60		△	○	○			○				
○		介護過程Ⅱ	介護過程の倫理と実習体験を関連づけながら、介護過程が利用者を主体とする生活支援活動の展開方法であることが理解できるよう具体的な事例を多く取り入れながら授業を進める。最初は学生自身の身に置き換えり身近なわかりやすい例示を挙げさらに高齢者等の事例で学び、介護実習で展開の演習をし、それを学生で共有し学ぶ。	2通	90		△	○	△	○	○	○				○
○		介護総合演習Ⅰ	介護実習に向けて、予備知識、動機づけの準備を行う。実習前には実習に必要な知識を学び目的を明確に実習をより意味のあるものとする。また個人差も考慮した指導を	1通	90		○	△	○			○				
○		介護総合演習Ⅱ	介護実習に向けての心がまえ、予備知識、動機づけ等の準備を行う。実習前には実習に必要な知識を学び目標を明確に実習に挑めるようにする。実習後には実習での学びを個人及びグループで振り返り実習をより意味のあるものとする。また個人差も考慮	2通	30		○	△	○			○				
○		介護実習Ⅰ	学内で学んだ学習を基礎とし、介護の実践を学ぶ。学内の授業に合わせながら段階ごとの目標を設定し、目標に応じた体験をする。達成度を高めるため、またより効果的な実習とするため、介護総合演習の時間などとタイアップさせながら、内容を充実さ	1・2通	##				○			○				○
○		介護実習Ⅱ	学内で学んだ学習を基礎とし、介護の実践を学ぶ。学内の授業に合わせながら段階ごとの目標を設定し、目標に応じた体験をする。達成度を高めるため、またより効果的な自習とするため、介護総合演習の時間などとタイアップさせながら、内容を充実さ	1・2通	##				○			○				○
○		発達と老化の理解	人間の誕生から死に至るまでの心身の発達や生理的变化をイメージする。その上で心身の変化が日常的に及ぼす影響、就労・経済・役割や人間関係の状況を知り、高齢者のこころを深く理解する。	2通	60		○					○				○
○		認知症の理解Ⅰ	認知症について歴史、医学的知識、生活への影響などを学ぶ。さらに認知症の状態に応じた介護方法を理解する。施設実習での実体験を効果的に用いながら認知症の対応	1後	30		○					○				○

○	認知症の理解Ⅱ	認知症について歴史、医学的知識、生活への影響などを学ぶ。さらに認知症の状態に応じた介護方法を理解する。施設実習での実体験を効果的に用いながら認知症の対応	2前	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	障害の理解Ⅰ	障害に関する視点を学び、基本を理解した上で、障害の形態別に応じた介護法を学ぶ。それぞれの常体でどのような介護が望ましいかを演習を中心として、1つ1つ考える授業を展開していく。	1後	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	障害の理解Ⅱ	障害に関する視点を学び、基本を理解した上で、障害の形態別に応じた介護法を学ぶ。それぞれの常体でどのような介護が望ましいかを演習を中心として、1つ1つ考える授業を展開していく。	2通	60	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	こころとからだのしくみ	こころのしくみについてはこころの概念や働きについて学ぶ。からだについてもそれぞれの機能や働きについて学び、生活支援技術と絡ませながら総合的・一体的に学ん	1通	##	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	医療的ケア論Ⅰ	痰の吸引、経管栄養等の技術の根拠となる人体の構造や機能、安全への配慮や心理的側面への配慮について、視聴覚教材等を用いながら学生が具体的に理解し、修得でき	1後	60	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	医療的ケア論Ⅱ	痰の吸引及び経管栄養等の技術を、学生が具体的に理解しながら練習し、習得できるようにする。	2前	60	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	ミドルウェア実習	パソコンの基本技術の習得を目指し、ワード・エクセル・パワーポイントの操作を実践的に学ぶ。習得したパワーポイントの技術を使い発表の体験を行う。	2通	60	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	試験対策	卒業時に実施する卒業試験の対策授業。2年間で学んだカリキュラム内容を実践形式で問題を解いていく。介護福祉士として相応しい能力が身につけているかの確認作業と	2後	90	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	特別講義	単発で専門的内容を学ぶ。例えば障害をもつ当事者の話やリハビリテーションの専門家の講義など見識を深めさせる。	1・2通	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
合計			32科目		2226単位時間(単位)															

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
①基準検定のA～Eを全て満たすこと ②TBC検定に合格すること ③卒業前研修及び海外研修旅行に参加すること ※委託訓練生は③は除く (基準検定) A:施設実習の履修と評価が全てC以上 B:全ての実習レポートの提出 C:進級(卒業)筆記試験合格 D:進級(卒業)実技試験合格 E:3回以上校外ボランティア参加		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。